

Ready Steady Go! Ready Go JAPAN!!



レディー・ステディー・ゴー!
レディー・ゴー・ジャパン!!
月刊WEBマガジン
第3号・2009年5月号
発行：RGJチーム事務局
編集：事務局・須藤むつみ
※掲載内容の無断転用を禁止します。

実業団レースで念願のRGJ初優勝

現在、日本で（観戦側だけでなく）参加者に人気のある自転車レースといえは、たつぷり距離が走れる「耐久系レース」か、自転車レース初心者でも、ある程度体力があればチャレンジの出来る「ヒルクライム系レース」の大きく分けて二つになるだろう。

ヒルクライムとは、登る。とにかく山とか坂を登り続けるコースでレースをおこなうこととなる。自転車、特に本式のロードレースと比べると、さんの選手たちが密集して走ると、いわゆる「集団」の中で走行に慣れることや、様々なロードレース経験を積まないで勝てない「体力+α」の部分が多めに多い。これが、ある意味ロードレースの醍醐味であるのだが、折角、自転車スポーツを始めて、どれぐらいどるの位置までいけるのか?とか、今は割と手前側での手軽な目安としてヒルクライムに挑戦する選手も多い。

一方で、非常に辛さや苦しさに参加していれば、誰でも分かるという明確さと、その中で一番になる選手イコール「強い選手」というストレートさの面でも人気があるのかも知れない。なにせ、数分おきにクラス別でスタートしても、強いクラスの選手たちが、地道に走る自分の真横をすり抜けたときの、異次元の走りを目の前で観られる時の感動!ソレと引き換え、なん



実業団自転車レースで初優勝したRGJ吉井 玲香選手。表彰式前には同行の仲間が彼女の髪を整えてくれた(撮影・Flame高橋)

だよ自分の走りは、などと反省しつつ来年の同じ大会では十秒でも縮めてやろう、という闘志も湧いてくる、というのがリビーターを呼び、人気が衰えない一因なのであろう。

この「しらびそ高原ヒルクライム」は、そんな数々の日本国内ヒルクライムレースのコースの中でもトップクラスの長い行程である二十二km。さらに直前の大雨と落石でコース後半箇所が通行止めとなり、その落石除去まで当初設定の二十二kmコースが使用不可であった。そのフルコースを三回目の開催で初めて走ることとなった今大会

しかし、レース当日は朝から雨。しかも、時折雨足は強くなる一方であった。そんな中、参加者総勢約六百人がクラス別にスタート。我がREADY GO JAPANの登りのスペシャリスト吉井玲香選手は体調も万全。スタート前には、茨城県土浦市の自転車店Flame店長の高橋氏の準備により、順調にスタートから一気に飛ばしていった。同じレースに出場していた選手や、運営スタッフの方々からもお話を後日、伺うことが出来たのだが、「思わず目を見張る登りの速さ」を發揮した吉井選手は、途中も一切スピードが落ちることなく走っていった

彼女の出場したクラスは「FR」といい、全日本実業団自転車競技連盟が運営する女子年間シリーズ戦「Jフェミニン」公式試合の一つ。そのため女子強豪選手である昨年の豊岡クロコ全日本選手権覇者である豊岡英子(パナソニックレディーズ)や、今年の日本ナショナルチーム強化指定選手である井上玲美(日野自動車レーシングチーム)、シクロクロス世界選代表選手だった志村みち子(ラヴニールあづみの)など並み居る顔ぶれが揃っていた。しかし、そのことは知るか知らずか吉井選手はほとんど登っていった。ただ、途中、少し下りセクションで、まだ自転車に乗り始めて一年未満の彼女はちよつと遅れてしまいが、それでもトップの位置は保ち続け、結局、そのまま二位とは九秒差、三位とは何と一分以上の差を付けてゴールを果たした



表彰式で真ん中に立って照れくさそうな笑顔を見せる吉井選手(写真左)。右は三位の井上玲美(日野自動車レーシング)

学生選手権レースで世界に一步近づく日本女子選手達

日本の今の自転車女子選手たちに足りないモノを上げるとキリがない。このような素地を作ってしまったことは選手やチームにも問題があるが、そのものにも問題があるのだ。日本の多くの自転車レースにおいて、選手人口の割合が非常に男性に傾いていることもあって、女子のレース設定はどうしてもオマケ扱いとなりがちだ。どの女子レースに行っても「耐久系レースを除いては、五十kmとか四十七km、酷いレースだと三十kmを切っている距離の設定では、もしも非常に前向きに世界を目指して、毎日百km以上走りこんで練習し準備しても意味がなくなりかねない。

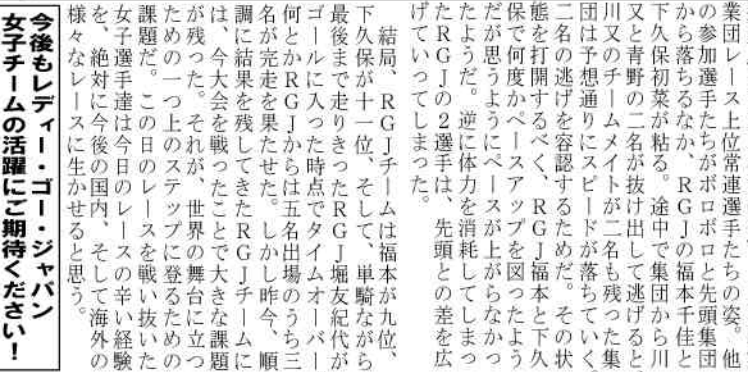
この学生選手権ロード女子レースに課された距離は百km!国際自転車競技連盟の公認する女子ロードレースでは一日百km前後を走るレースがスタンダード。さらにいえば、世界の選手を決める「世界選手権」では女子でも百三十〜百五十km前後を一日で走る(ちなみに男子は約二百五十km)百kmのレースに出場するということは、世界を視野に入れて練習と準備をする近道にもなるのだ。



スタートを待つRGJチーム選手たち。左より福本、吉井、松田千裕、堀、下久保の各選手(撮影・RGJチーム事務局)

スタートは直前に降りだした雨の中、序盤からなかなか速いペースでレースが進んでいく。集団の先方を固めるのは、昨年のデイトンデインジ・チャルピオン萩原 麻由子(現:サイクルベイスあさひ)を輩出した鹿屋体育大学の川又千裕、木村奈美、早坂ありさの三名、それに東北に拠点を置く青野奈美(SEKI東北の)、さらに実業団レースに上位常連選手たちの姿。他の参加選手たちがポロポロと先頭集団から落ちるなか、RGJの福本千佳と下久保初葉が粘る。途中で集団から川又のチームメイトが二名も残った集団は予想通りにスピードが落ちていく。二名の逃げを容認するため、その状態を打開すべく、RGJ福本と下久保で何度かペースアップを図ったようだが思うようにペースが上がらなかつた。逆によりペースを消耗してしまっただけでいいってしまった。

結局、RGJチームは福本が九位、下久保が十一位、そして、単騎ながら最後まで走りきったRGJ堀友紀がゴールに入り、その時点でタイムオーバー!何とかRGJからは五名出場のうち三名が完走を果たした。しかし、昨今、順調に結果を残してきたRGJチームには、今大会を戦ったことで大きな課題が残った。それが、世界の舞台に立つための一つ上のステップに登るための課題だ。この日のレースを戦い抜いた女子選手達は今日のレースの辛い経験を、絶対に今後の国内、そして海外の様々なレースに生かせると思う。



時折、雷も鳴る悪天候のなか、参加女子選手たちは懸命に走っていた

今後もレディー・ゴー・ジャパン女子チームの活躍にご期待ください!